

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	わらび学園			
○保護者評価実施期間	令和6年10月7日 ～ 令和6年10月18日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日 ～ 令和6年10月11日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日				

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援計画作成のプロセスが保護者様にとってわかりやすく、お子様の意向が反映された目標、支援内容となっていること	面談などを通し、日々の支援の内容や将来の生活等に向けてのお子様や保護者様の意向を仔細に確認するとともに、お子様主体の計画となるよう、日頃から、お子様の様子、表情、仕草、声色、動作、行動などからその思いや願いを丁寧に汲み取るよう心がけています。	お子様の最善の利益の実現のため、お子様に寄り添い、さらにお子様の意思を汲み取れるよう、信頼関係を強固にし、安心安全な園生活に尽力したいと思います。
2	施設設備や器具什器等が充実していること	全ての居室、遊戯室の天井には感覚統合訓練教具を吊るせる金具が設置されており、お子様の発達段階に応じて自由に使用できます。大きなプールや広いグラウンド、また固定遊具等にて自然豊かな環境の中、五感を刺激できる遊びが楽しめます。	グラウンドに関しては誰でも気兼ねなく楽しめるインクルーシブ遊具の設置を目指したいと思います。室内においてはボルダリング等、全身運動につながる遊びを活動の中に取り入れていきたいと思っています。
3	お子様が選択できる機会が多いこと	日々の日課や活動において、一人ひとりのお子様の状態を鑑みて、二者択一方法を含めお子様自身が選び取る体験につながるよう、教材教具等の提供方法に工夫を重ねています。バイキング給食では、好物を率先して選ばれるお子様方の笑顔が印象的でした。	お子様の負担にならない程度に日課を流動的に変え、意欲的に活動に取り組める中、お子様の好みを手がかりにさらにお子様自身の選択の機会を増やし、一人ひとりの自己肯定感や自尊心の向上に努めていきたいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベント的行事が少ないこと	運動会や生活発表会等、ある程度の練習が必要なイベント的行事は、日々の生活が通常日課と異なることでのお子様の混乱や負担感を考慮し、現在は取敢て設定しておりません。	イベント的行事については、定期的に行っている保護者様参加の親子行事の「親子教室」にてかけっこや身体を動かす活動等運動会的要素を取り入れ、企画開催しております。今後、保護者様のご要望に応じて、行事の中にイベント的要素を増やしていくことも検討したいと思っています。
2	きょうだい支援が不十分なこと	行事によってはごきょうだいの参加をお受けしておりますが、それ以外のごきょうだいとの接触やごきょうだいの思いを確かめる機会がほとんど無いのが現状です。	きょうだい支援に関しては、今後取り組むべき課題で、ごきょうだいが自分らしく生きられるよう、まずは利用児様への肯定的な関りや家族支援として家族全体への支援の継続を心がけたいと思います。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のお子様と活動する機会が少ないこと。	コロナ禍以前は「交流保育」にて地域のこども園との定期的な交流の機会を持っていましたが、感染症の懸念により、現在も休止中です。	感染症の流行等に十分配慮し、地域のお子様との交流の機会の再開に努めたいと思います。